資料2

第7回旧RD最終処分場跡地利用協議会

跡地活用計画の推進方策の検討

令和8年(2026年) 11月 16日

本日の説明内容

１．先進事例の整理と絞り込み
１－１．前提条件
１－２．絞り込み
１－３．第6回協議会で出された意見との対応
１－４．その他の跡地利用方法

２．跡地活用計画の推進方策の検討
２－１．行程（案）の作成について
２－２．事業推進ケースの設定
２－３．行程（案）

1. 先進事例の整理と絞り込み

１－１．前提条件

利用候補を絞り込むため、前提条件を整理します。
環境省「最終処分場跡地形質変更に係る施行ガイドライン」や先進事例を参考に下表のとおりとします。

項目	前提
覆土	厚さ0.5m。このうち深さ0.2~0.3m までは掘削してよい。
盛土	局所的な盛土は可。覆土厚そのものの嵩上げは行わない。
基礎	ベタ基礎は可。廃棄物層があるため杭基礎は用いない
沈下	沈下は発生するものとして計画する。
遮水シート	現地の遮水シートを剥がす必要がある利用は、費用が大きく実現可能性は低い。
既設設備	調整池、ガス抜き管および水路は原則として残置する。移設は可能だが費用と手戻りを伴う。
舗装	覆土掘削可能な範囲かつ部分的なものに限る。

1. 先進事例の整理と絞り込み

第6 回協議会における16 候補の評価
第6 回 旧RD 最終処分場跡地利用協議会 資料3「跡地活用事例を参考に旧RD 最終処分場跡地へ当てはめた場合」の内容を再掲します。

No	候補	表層のみの利用で可能か	表面を覆わずに洗い出し効果を得られるか	井戸・ガス抜き管の支障	沈下の凹凸を許容できるか	荷重増による斜面安定リスク	周辺環境への影響	維持管理の容易さ	本格利用（安定後）	協議会資料に記された主な指摘
1	芝生広場	○	○	○	○	○	○	○	○	―
2	遊具公園	○	○	○	○	○	○	○	○	配置する遊具の種類は支持力の精査が必要。ある程度の規模の遊具を設置することも可能
3	庭園	○	○	○	○	○	○	×	○	地下に大きく根を張る植物は難しい
4	グラウンドゴルフ場	○	○	△	○	○	○	△	○	―
5	農園	△	○	○	○	○	△	△	△	栽培する方法について検証は必要。表面を掘削できない制約があるが方法を選べば可能。風向きによっては肥料の匂いが漂う可能性

1. 先進事例の整理と絞り込み

No	候補	表層のみの利用で可能か	表面を覆わずに洗い出し効果を得られるか	井戸・ガス抜き管の支障	沈下の凹凸を許容できるか	荷重増による斜面安定リスク	周辺環境への影響	維持管理の容易さ	本格利用（安定後）	協議会資料に記された主な指摘
6	ソーラーパネル	○	○	△	△	○	△	○	○	設置場所によっては反射がまぶしい可能性。売電の利益について、施設の設置者になり、地元への還元は難しい
7	駐車場	○	○	○	○	○	○	○	○	未舗装の場合。舗装をしない駐車場であれば、どの時点でも進められる
8	テニスコート	△	○	×	△	○	△	△	○	防球ネットの設置は困難。設置のための掘削が必要。砂のコートの場合、埃が舞う可能性
9	バスケットボールコート	○	○	×	×	○	○	○	○	コンクリート以外のコートの場合。ゴールネットの基礎の形状は検討が必要
10	少年野球場	△	○	×	△	○	△	△	○	防球ネットの設置は困難。設置のための掘削が必要。砂のコートの場合、埃が舞う可能性
11	少年サッカー場	△	○	×	△	○	△	△	○	同上

1. 先進事例の整理と絞り込み

No	候補	表層のみの利用で可能か	表面を覆わずに洗い出し効果を得られるか	井戸・ガス抜き管の支障	沈下の凹凸を許容できるか	荷重増による斜面安定リスク	周辺環境への影響	維持管理の容易さ	本格利用（安定後）	協議会資料に記された主な指摘
12	多目的グラウンド	△	○	△	△	○	△	△	○	同上
13	スケートパーク	△	×	×	×	○	△	△	○	地面を掘削しないコースに限られる。転がり抵抗が少ない路面が求められコンクリートが望ましい。騒音が問題となる場合がある。コンクリートで覆う必要があり、洗い出しの効果を得る必要がある暫定利用時は難しい
14	防災資材置場	○	△	○	○	○	○	○	○	資材によっては舗装が必要。資材の盗難対策が困難
15	災害廃棄物置き場	○	○	○	○	△	×	○	○	埃や匂い、重機の稼働音の懸念
16	建物・ホール	×	×	×	×	×	○	△	×	建物の支持力確保が難しい

1. 先進事例の整理と絞り込み

１－２　絞り込み

以下の3段階に分けて絞り込みを行いました。

■STEP1 覆土の厚さと基礎による絞り込み

旧RD 最終処分場の覆土は厚さ0.5m であり、このうち跡地利用に向けて掘削可能な範囲は深さ0.2~0.3m に留まります。また地中には廃棄物があるため杭基礎を用いることはできない。この2つの前提から、防球フェンスや照明柱の支柱基礎のように一定の深さを要するもの、暫定利用の段階で舗装を要するもの、建物の支持力を確保できないものは、旧RD 最終処分場の跡地利用として成立しない。上記の理由で、実現し得ない候補は対象外（×）と評価しました。

■ STEP2 維持管理と周辺環境による絞り込み

第6 回協議会の評価では、「維持管理の容易さ」または「周辺環境への影響」が×とされた候補がある。これらは、優先度が下がるものとして候補から除外します。

■ STEP3 絞込み後の候補の適用性評価

STEP1 およびSTEP2 のいずれにも該当せずに残った候補について、次の4 項目を整理し、評価します。必要面積および掘削深さの目安、既設のガス抜き管・観測井戸との位置関係、他の処分場跡地における導入実績、および旧RD 最終処分場への適合性を整理しました。

1. 先進事例の整理と絞り込み

■STEP1 覆土の厚さと基礎による絞り込み
旧RD 最終処分場の覆土は厚さ0.5m であり、このうち跡地利用に向けて掘削可能な範囲は深さ0.2~0.3m に留まります。このため、以降の検討では以下、6 件は検討の対象としないこととします。

1. 先進事例の整理と絞り込み

No	候補	旧RD最終処分場で成立しない理由
8	テニスコート	防球フェンスおよび照明柱の支柱基礎に必要な深さが、使える覆土0.2~0.3mを超える。既設のガス抜き管・井戸ともコート割付が干渉する。
9	バスケットボールコート	ゴール支柱の基礎について同じ。加えて沈下による競技面の不陸が直接影響するため、沈下の項目も×とされている。
10	少年野球場	テニスコートと支柱の基礎について同じ。
11	少年サッカー場	同上
13	スケートパーク	コンクリートで覆う必要があるため、暫定利用の段階では洗い出しの効果が得られない。
16	建物・ホール	杭基礎が使えないため、ベタ基礎で支持力と不同沈下に対応する必要があるが、覆土0.5mでは成立しない。

1. 先進事例の整理と絞り込み

■STEP2：維持管理と周辺環境による絞り込み
第6 回協議会の評価では、「維持管理の容易さ」または「周辺環境への影響」が×とされた候補がある。
これらは優先度が下がるものとして、以下2件を候補から除外します。

1. 先進事例の整理と絞り込み

No	候補	×とされた項目	内容
3	庭園	維持管理の容易さ	植栽の管理に継続的な手間がかかる。また「地下に大きく根を張る植物は難しい」とされており、樹種が限られる。なお施工上の項目はすべて○である
15	災害廃棄物置き場	周辺環境への影響	埃や匂い、重機の稼働音が懸念される。議事要録からも「周辺住宅への配慮（におい・砂塵・ボール等の飛散防止）」が意見として出ている

1. 先進事例の整理と絞り込み

■STEP3：絞込み後の候補の適用性評価
STEP1 およびSTEP2 のいずれにも該当せずに残った候補について、次の4 項目を整理し、評価します。必要面積および掘削深さの目安、既設のガス抜き管・観測井戸との位置関係、他の処分場跡地における導入実績、および旧RD 最終処分場への適合性を整理しました。

1. 先進事例の整理と絞り込み

No	候補	必要面積	必要掘削深さ	既設設備との関係	他事例での導入実績	旧RD最終処分場への適合性
1	芝生広場	規定なし	掘削を伴わない（客土は上載）	影響しない	5事例	◎
7	駐車場	1台あたり約23～31㎡（通路を含む）	未舗装なら掘削を伴わない。舗装する場合は路盤を含め20～30cm以内	影響しない	9事例	◎
4	グラウンドゴルフ場	1コース（8ホール）で約4,000㎡	掘削を伴わない	ガス抜き管・井戸の位置がコース取りを制約する	3事例	◎
12	多目的グラウンド	1面　約5,000～7,000㎡	掘削を伴わない。防球ネットを設けない場合に限る	ガス抜き管・井戸の位置が利用範囲を制約する	5事例	◎

1. 先進事例の整理と絞り込み

No	候補	必要面積	必要掘削深さ	既設設備との関係	他事例での導入実績	旧RD最終処分場への適合性
2	遊具公園	遊具の外形に加え周囲1.5～1.8mの安全領域	遊具基礎を20～30cm以内に収める設計が必要	影響は局所に留まる	3事例	○
5	農園	1区画15～50㎡。通路等で約4割増	耕作の深さが覆土を貫かない方法（棚式、プランター等）に限る	影響しない	2事例	○
6	ソーラーパネル	1kWあたり約16～31㎡	架台基礎を20～30cm以内または置き基礎とする	既設設備の配置と架台割付が干渉する	2事例	○
14	防災資材置場	規定なし。備蓄物資の量から逆算する	掘削を伴わない	影響しない	該当なし	○

1. 先進事例の整理と絞り込み

１－３　第6回協議会で出された意見との対応

第6 回協議会で出された跡地利用に関する主な意見と、本検討における利用候補の評価および制約条件との対応を整理しました。

意見	本資料の整理との対応
周辺一体のエリアマネジメントを考えた計画としてほしい	周辺では健康運動公園（令和11年に先行開園、令和14年に本開園を目標）、火葬場（令和10年3月供用開始予定）、環境センターの延命化、小野南部・上砥山工業団地の開発が進行している。跡地単体ではなく、これらとの役割分担のなかで用途を定めることになる
周辺住宅への配慮（におい・砂塵・ボール等の飛散防止）	農園は肥料の匂い、砂のコートは埃、災害廃棄物置き場は埃・匂い・重機の稼働音が指摘されている。防球ネットを設けられないため、ボールが場外へ出る球技はそもそも成立しない
憩いの場としての公園（遊具・芝生・周回園路・日陰の確保）	芝生広場（◎）、遊具公園（〇）はいずれも残る候補である。周回園路は未舗装であれば掘削を伴わない。日陰については下段を参照
若年層が楽しめるスポーツ施設（3on3、テニス、フットサル等）	いずれも対象外とした。理由は支柱基礎に必要な深さと既設設備の配置による。代替となりうる種目を後述する。
地域が集える場づくり、継続的な維持管理、民間活力の活用	維持管理の容易さが〇なのは芝生広場、遊具公園、駐車場、ソーラーパネル、防災資材置場である。民間活力ではソーラーパネルが考えられるが、地元への還元が難しいと評価されている
暑熱対策としての緑陰は必須。大木が難しければ日除け設備等の代替策を	大木は「地下に大きく根を張る植物は難しい」。パーゴラや日除けシェードはベタ基礎で成立しうる。

1. 先進事例の整理と絞り込み

1－4　その他の利用方法

名称	必要な広さ・寸法	内容
(1) 広場でできる球技・ゲーム　― 固定設備も掘削も必要としないもの		
モルック 実施人口 約362万人 協会推計・2025年	コート 4m×10m （最小） 路面 砂・砂利・クレイ 芝・人工芝も可 用具 すべて可搬	フィンランド発祥の、木の棒を投げて数字の書かれた木製のピンを倒し、得点を競う遊び。屋外のコートは最小で幅4m×長さ10m。路面は砂・砂利・クレイが推奨されるが、芝や人工芝でもよいとされている。用具はすべて木製の可搬具。日本モルック協会は、過去1年間に1回以上プレーした人を約362万人（2025年のウェブ調査からの推計）としている。2026年の青森国民スポーツ大会のデモンストレーション種目になっている。
ペタンク 登録競技者 4,200人 笹川スポーツ財団・2024年度	コート 15m×4m （下部大会は12m×3m）	フランス発祥の球技。金属製の球を投げ、目標球にどれだけ近づけられるかを競う。コートは15m×4m、下部団体の大会では12m×3mまで縮小できる。用具（球、目標球、サークル）はすべて可搬で、47都道府県すべてに加盟連盟がある。11歳以下は軽量球も使える。
クッブ 全国統計なし	コート 8m×5m 路面 平坦な芝・草地 用具 すべて可搬	北欧発祥の、木の棒を投げて相手陣の木片を倒す遊び。コートは8m×5mで、平坦な芝生または草地で行う。用具はすべて木製の可搬具。2021年の三重とこわか国体のデモンストレーション種目になっており、子どもから企業レクリエーションまで幅広い層が参加している。
(2) ゴルフ型の競技　― グラウンドゴルフ以外のもの		
パークゴルフ 愛好者 約60万人 約900コース 笹川スポーツ財団・年次不明	18H 7,000㎡以上	北海道発祥の、クラブ1本で行うゴルフ。1ホールは最長100m、18ホールで700～1,000m、面積は7,000㎡以上（平坦地では20,000㎡程度が望ましいとされる）。笹川スポーツ財団の資料では全国に約900コース（うち協会公認180）、愛好者約60万人とされている。都城市の一般廃棄物最終処分場跡地（志和池中央ふれあい公園）に18ホールの実績がある。
ディスクゴルフ 公認コース 49 日本ディスクゴルフ協会	カゴ 高さ130～165cm 重量10～15kg	フリスビーを投げて、ゴールのカゴに入れるまでの回数を競う。日本ディスクゴルフ協会の公認コースは全国49。協会は「既存の自然環境や起伏、林間部などを活かして設計することが可能で、大規模な造成工事を必要としません」としている。据置き型のカゴ（高さ130～165cm、重量10～15kg）を使えば設置に掘削を伴わない。
マレットゴルフ 加盟19団体・18都道府県 日本マレットゴルフ協会 2026年6月	カップ 内径185mm以上 深さ200mm以内 ポール 地上150cm以上 直径20mm	木槌状のクラブでボールを打つ。カップは内径185mm以上・深さ200mm以内、フラッグポールは地上150cm以上・直径20mmと細い。長野県を中心に普及し、無料の公営コースも多い。金沢市の戸室スポーツ広場に18ホールの実績がある。
ターゲットバード ゴルフ 全国統計なし	常設9H 7,000㎡以上 全長600m以上 仮設 5,000㎡以上 全長400m以上	ゴルフクラブで羽根の付いたボールを打ち、傘を逆さにした形のホールに入れる。常設コースは9ホールで7,000㎡以上・全長600m以上、仮設コースは5,000㎡以上・全長400m以上で、仮設は芝でも土でもよい。規則上、ホールの支柱は地面に打ち込む方法と、自立式の台座を使う方法の2通りが認められている。厚木市には河川敷に18ホールの無料コースがある。

1. 先進事例の整理と絞り込み

名称	必要な広さ・寸法	内容
(3) コートを使う球技		
ピックルボール 実施人口 約33万人 民間推計・2026年	コート 13.4m×6.1m （バドミントンのダブルスと同大）	テニスより狭いコート（13.4m×6.1m、バドミントンのダブルスコートと同じ大きさ）で、穴の開いた軽いプラスチック球をパドルで打ち合う。ネットは中央86.3cm・端91.4cmと低く、ポータブルネットでも成立する。路面は固くて平らであればよく、アスファルト、コンクリート、ハードコートが使える。ピックルボール日本連盟は2024年4月時点の競技人口を約5,000人としていた。民間調査では2026年3月時点の推計を約33万人としており、短期間で急速に広がっている。東京都江東区豊洲には2026年9月に屋外4面の常設コートが開設された。
(4) 自転車・体を使う遊び		
ランニング・ ウォーキングコース 実施人口 ウォーキング 2,880万人 ランニング 806万人	土系舗装 16cm	周回できる園路を設ける。土系舗装は表層6cm＋路盤10cmで合計16cm、ウッドチップ舗装は路盤5cm＋表層10cmで合計15cmという公共の施工例があり、いずれも使える覆土20〜30cmに収まる。忠生スポーツ公園には500mのジョギングコースと散策路がある。
パンプトラック 全舗装型 国内2〜4か所 国土交通省資料・2025年	コース 延長約300m 幅2.0m	ペダルをこがず、体重移動だけで進む、起伏とカーブで構成された自転車用のコース。福島県新地町では防災緑地公園内に設置されている。
(5) 犬・乗り物		
ドッグラン 犬の飼育頭数 約682万頭	最小 100㎡程度	フェンスで囲った区域内で、犬をつながずに運動させられる広場。港区の設置基準では、標準面積を公園面積の2%以内、最小面積を100㎡程度とし、小型犬ゾーン100㎡以上と一般犬ゾーン150㎡以上の2区分を基本としている。外周は高さ1.5m以上のメッシュフェンスで、出入口は二重構造。路面は「病原菌が繁殖しにくい素材」とされ、芝、草地、伐採木のチップを使った例がある。
ゴーカート カート場 全国94か所 専門媒体の集計 うちJAF公認23	コース 全長1,000m超 幅8〜10m	小型の四輪車で走行するコース。本格的なレンタルカートコースは全長1,000m超・幅8〜10mで、付帯施設を含めると2〜3haの用地を要する。自治体の施設としては交通公園内の低速ゴーカートが主流で、舗装された園路を走行する。
ラジオコントロール カーのコース 全国統計なし	屋外 400㎡程度から	無線で操作する模型自動車の走行コース。屋外400㎡程度から成立する。オンロードは舗装された路面が必要だが、オフロードは土面でよく、段差や傾斜をジャンプ台やバンクとして活かす設計が推奨されている。茨城県五霞町は調整池にラジコンパークを整備し、レベル別の4コースを設けている。

1. 先進事例の整理と絞り込み

名称	必要な広さ・寸法	内容
(6) 集まる・過ごす		
マルシェ・ キッチンカー広場 都内の営業許可 4,608台 東京都・2021年	キッチンカー1台 2m×5m テント 3m×3m 電源 1店舗10A程度 給排水 必要	定期的に出店が集まる広場。キッチンカー1台あたりの区画は2m×5m（豊中市の都市公園での例）、マルシェのテントは3m×3mが標準。固定施設が少なく、電源（1店舗あたり10アンペア程度）と給排水があれば運用できる。
パーゴラ・ 日除けシェード 全国統計なし	据置型 基礎工事なし 自立型 転倒防止の 押え重量が必要 （寸法は製品による）	藤棚や膜屋根によって日陰をつくる。日射の遮蔽は暑さ対策として効果が大きく、環境省の資料では緑陰や日除けによりWBGTが約2℃低下するとされている。国土交通省は、植物で日陰をつくる「みどりのクールスポット」として据え置き型の緑陰施設を推進しており、個別に構造物をつくる必要がなく、設置も現状復旧も容易であるとしている。
(7) 跡地の経緯を活かす		
環境学習フィールド 全国統計なし	寸法の定めなし 解説板 置き基礎 園路 土系舗装16cm程度	処分場であった経緯や安定化の仕組みを掲示し、観察路とあわせて学習の場とする。

2. 跡地活用計画の推進方策の検討

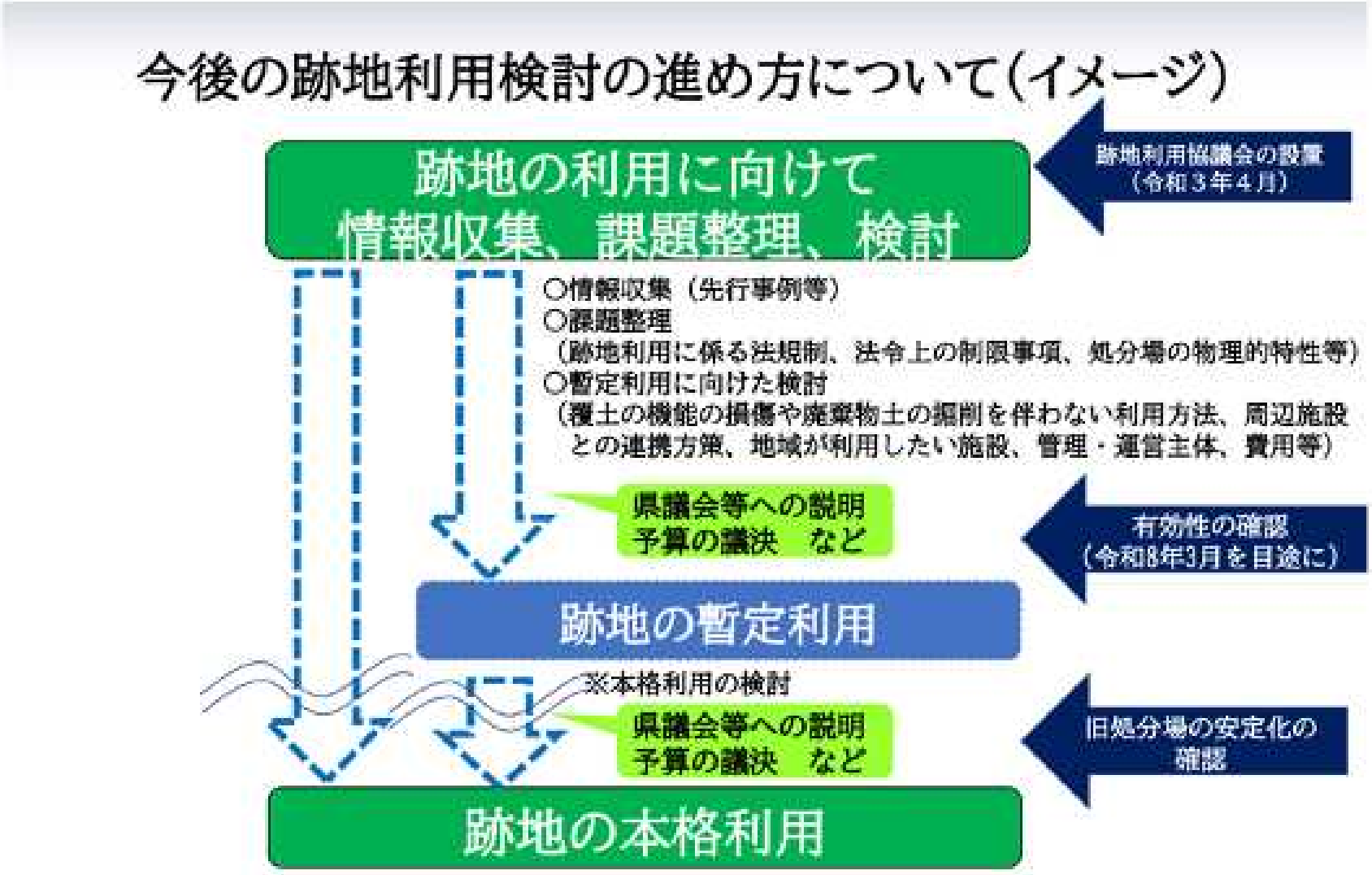
２－１. 行程（案）の作成について

行程（案）の骨格は、第6 回旧RD 最終処分場跡地利用協議会 資料3「今後の跡地利用検討の進め方について（イメージ）」とします。同資料では、有効性の確認後「跡地の暫定利用」に移行し、旧処分場の安定化を確認したうえで、「跡地の本格利用」に至る2 段階の流れが示されています。

この2 段階の流れを維持したうえで、本件では暫定利用を検討することとし、民間活力を活用することの検討も含めて行程（案）を作成することとしました。

また、跡地利用基本計画は令和10 年度頃の策定を一つの目安と設定し、行程を検討することとしています。

2. 跡地活用計画の推進方策の検討



2. 跡地活用計画の推進方策の検討

２－２．事業推進ケースの設定

事業推進ケースを2 つ設定し、考え方、事業主体、利点および課題を比較します。
ケースA「県主体で進めるケース」は、県が整備・管理主体となり、必要に応じて地元自治会等が利用ルールや管理体制づくりに参画する進め方です。
ケースB「民間活力を活用するケース」は、民間事業者との対話（サウンディング型市場調査）を踏まえ、参入意向と事業条件を把握したうえで、民間の資金やノウハウを活用する事業手法を選ぶ進め方です。

2. 跡地活用計画の推進方策の検討

項目	ケースA 県主体で進めるケース	ケースB 民間活力を活用するケース
考え方	県が計画・整備し、必要に応じて地元が利用ルールや管理体制づくりに参画する。運営は直営、指定管理者または地元団体への管理委託とする。	サウンディングで民間の参入意向・事業条件を確認し公募による土地の貸付、設計・整備と運営の一括発注等、民間を活用する手法を選ぶ。
主に想定する利用	芝生広場、遊具公園、グラウンドゴルフ場、多目的グラウンド、駐車場、農園（地元団体による管理）	ソーラーパネル、駐車場、スポーツ・レクリエーション施設や農園の運営（周辺施設との一体運営を含む）
整備主体	県	民間事業者
運営・維持管理	直営、指定管理者、地元団体	民間事業者
財源	県費が中心	民間資金
地元の関与	計画段階から利用ルールや管理体制づくりに参画しやすい。	地元要望（無料で使える遊具・芝生、緑陰等）をサウンディングや公募条件に反映させる仕組みが必要となる。

2. 跡地活用計画の推進方策の検討

項目	ケースA 県主体で進めるケース	ケースB 民間活力を活用するケース
参考事例	蓮池の里（野洲市、条例で設置・直営） 戸室スポーツ広場（金沢市、指定管理者） 神明台（横浜市、業務委託） 淀町グラウンド・ゴルフ場（大津市、直営）	淀町の太陽光発電（大津市、市有地の貸付をプロポーザルで公募） 忠生スポーツ公園 第二次整備（町田市、サウンディングで事業手法を検討） 健康運動公園（栗東市、マーケットサウンディングを実施）
主な利点	地元の意向を直接反映できる。手続が単純で行程の見通しを立てやすい。	整備・維持管理に係る公共負担を抑えられる。民間の運営ノウハウにより利用が促進される。
主な課題	整備費・維持管理費が公共の負担となる。継続的な維持管理の担い手の確保が必要である。	覆土0.5m、構造物の制限、沈下等の制約と4.85haの規模から収益性が限られ、参入意向が得られない可能性がある。
行程への影響	基本計画→設計→整備と直列に進む。暫定利用の開始は令和13年度頃が目安となる。	サウンディング、事業手法の検討、公募・選定の期間が加わる一方、設計と整備を一括で行える。利用開始は令和13～14年度頃が目安となる。

2. 跡地活用計画の推進方策の検討

2－3. 行程（案）

